

【第1学年】 児童の実態・課題及び授業改善策

	児童の実態・課題	授業改善策
国語	<p>○読み聞かせを楽しめる児童が多い。</p> <p>●語彙が少ないために、文に書いてあることや話している内容の理解ができないことがある。</p> <p>●大切なことを落とさずに聞くことが難しい児童がいる。</p> <p>●助詞の使い方や長音、拗音、促音などの使い方の理解が十分ではない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業では読み聞かせや、気持ちを表す言葉集めなどを行い、朝自習や朝の会等を活用し、しりとり遊びや早口言葉、回文やカルタ遊び、なぞなぞ遊びなどを通して様々な言葉に触れる機会をもつ。 ・話す・聞くの活動の際には、めあてを明確化し、自分たちの聞き方について振り返る時間を確保にもたせる。 ・ペアで聞き合う活動や、読み聞かせの後にクイズを取り入れるなど授業の様々な場面に「聞く」活動を組み込む。 ・ワークシートや宿題プリント等を活用し、長音、拗音、促音の使い方を反復練習する。また、短い文を書く活動を定期的に行い、繰り返し書くことで助詞や長音等の使い方を身に付けさせる。 ・助詞の使い方や長音、拗音、促音などについてミニテストを繰り返し行い、習熟度を把握する。
算数	<p>○計算問題に意欲的に取り組む児童が多い。</p> <p>●単位を付け忘れる児童がいる。また、問題から答えにどの単位をつけるべきか迷ってしまう場合が見られる。</p> <p>●文章問題からたし算であるか、ひき算であるか判断できず、正しく立式をすることが難しい児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の場面を具体物を使って想起させる。また、言葉に着目し、問題文の意味を考えながら正しく立式できるようにする。 ・たし算になるのかひき算になるのかについての自分の考えを言葉で説明する機会を多く設ける。 ・どの言葉に着目することで判断できるのか繰り返し伝えたり、線を引かせたりすることで定着を図る。また、具体的場面を想起させられるよう絵や具体物を使って確認する機会をつくる。
生活	<p>○友達に、知っていることを積極的に伝えることができる。</p> <p>●自然の変化や季節の様子に気付いてもカードに絵や文で表すことを苦手とする傾向がある。</p> <p>●季節や時期に合った動植物を知らない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察をするときには、毎時間、色や形など観察の観点を繰り返し確認する。 ・カードに書くことを苦手としている児童には個別に支援を行う。 ・自然の変化や季節の様子について気付いたことを書くことができている児童のカードを紹介し、書き方を共有していく。 ・季節を感じられるものを意識的に取り上げ紹介する。 ・季節や時期に見られるものを実物や画像などを積極的に活用していく。
音楽	<p>○楽しんで活動することができる。</p> <p>●手打ちのまねをして拍を取ることはできても、曲のリズムに合わせて拍を取ることが難しい児童がいる。</p> <p>●自分の思いにあった表現をするための楽器演奏等の技能の習得が十分ではない場合が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な食べ物などの言葉を使ったリズム作り活動に取り組み、短いリズムのまとまりを繰り返し感じられるよう指導する。 ・既習したリズムのまとまりを、様々な曲に合わせて繰り返し手打ちするなど、楽しみながらリズムを取る活動を増やす。 ・手打ちだけではなく、肩や膝を打ったり、ジャンプをしたりするなど、様々な体の動きでリズムを取る活動を取り入れる。 ・カスタネットやタンブリンの打ち方を教えたり、大きな鍵盤を表示し、指遣いを教えたりする。 ・様々な楽器に触れる機会をつくり、音の出し方で音色が変わることに気付かせる。
図工	<p>○楽しみながら創作をすることができる。</p> <p>●発想を広げたり、創意工夫したりするのが難しい児童がいる。</p> <p>●作品を見て、自分の感じたことを表現することが難しい児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・用意する色や道具、材料を増やし、児童の表現方法を広げる。 ・作品作りの途中でも鑑賞活動を取り入れ、互いの良さを見つけ、発想を広げやすくする。 ・鑑賞する際にヒントとなる語彙を一覧にして示し、児童が感じたことを表現しやすくする。
体育	<p>○ルールを守って楽しく活動することができる。</p> <p>●技能面や体力面など、体を動かす経験が十分でない傾向が見られる。</p> <p>●運動遊びの行い方を工夫したり、考えたことを友達に伝えたりすることが難しい児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動を準備運動で取り入れ、楽しみながら体を動かせるように指導する。 ・教師または児童が模範演技等をし、やり方を目で見て、イメージをもたせられるようにする。 ・走る、跳ぶ、投げる等、幅広い運動経験を取り入れていく。 ・模範となる動きをまねすることから、できるイメージをもたせ、スモールステップを踏めるように場の工夫を行う。 ・ペア活動を取り入れ、運動を通して友達のいいところを見付けたり、友達と協力したりする楽しさを味わえるようにする。 ・学習の感想を伝え合う時間を設ける。